

表紙の説明

冬の富士山と満天の星

市田信行 陸自77

数年前、冬の富士山で夜を過ごすことを課題にしていた時期がありました。もちろん山頂部は無理なので、5合目付近の見晴らしのいい高台まで登り、カメラとコーヒーで一夜を過ごすという試みです。

その試みの何度目かの夜、目の前に灰色の富士山が立っていました。山腹には約3百年前に噴火した火口が大きな口を開けており、霧雲がその火口に吸い込まれていくように流れていました。一方、空には満天の星が輝いていました。北の空に見えるていたのは、北極星、天の川、カシオペアです。カシオペアのWの形は右に傾いてちょうど富士山の山頂部に沈んでいくところでした。

その光景を、30分間シャッターを開けたままにして撮影したのがこの写真です。その30分間に、弱い光は撮像素子に蓄積されて、灰色だった富士山は色彩を取り戻しました。また星は、その30分間に、北極星を中心に、7度半回転運動したように写しだされています。

山で一夜を過ごすということは、普段は見えない微かなもの、微かな動きを、時間をかけることによって感じていくことなのかもしれません。この30分間の写真を数回撮影すると、夜が明けてきます。